

岐阜県経済の現状



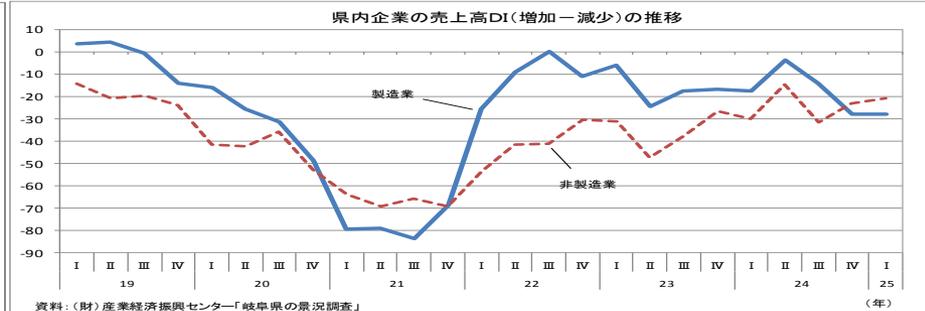
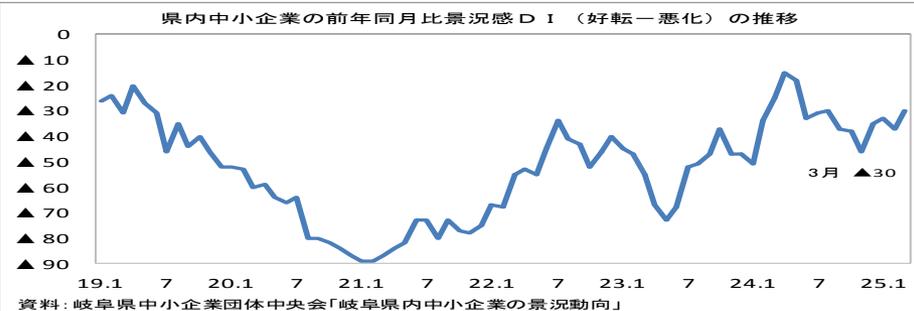
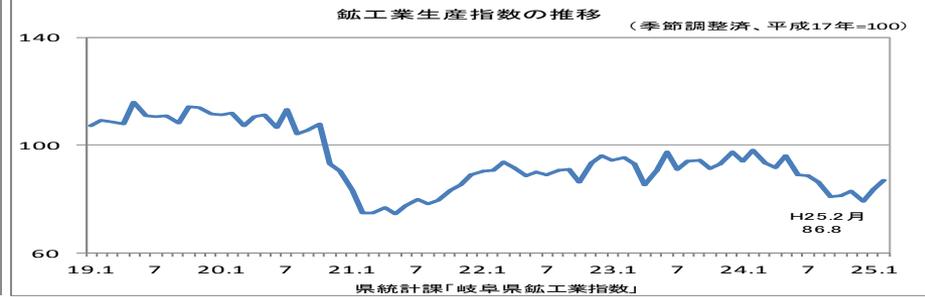
平成25年4月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは4月24日～26日を中心に実施し、5月10日に作成。

景気動向・製造業

○2月の景気動向指数(CI、一致指数)は103.6と前月から1.8ポイント上昇。県内中小企業の3月の景況感は、7ポイントの上昇。

○2月の鉱工業生産指数は、4.1%増の86.8となった。製造業及び非製造業の売り上げは横ばい傾向。



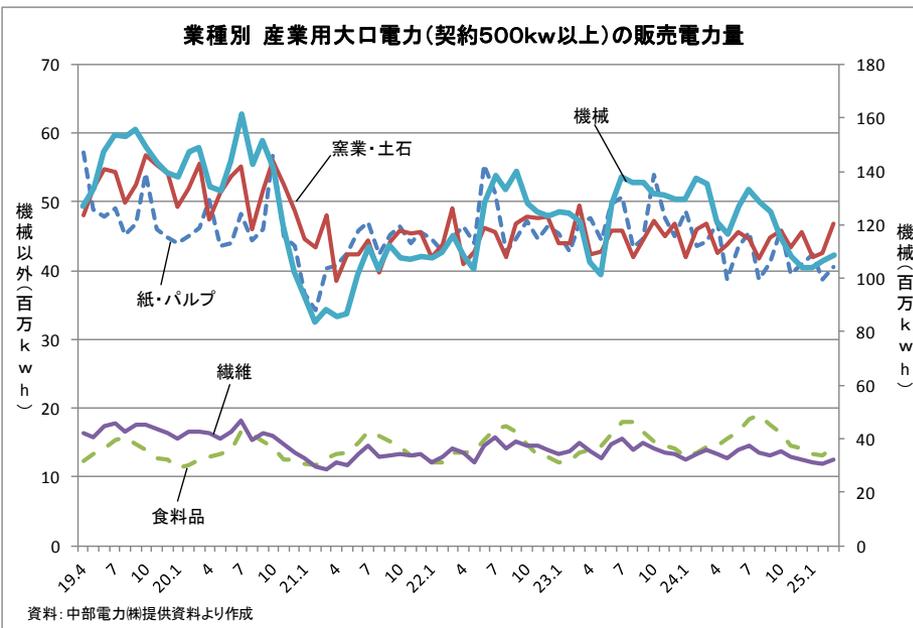
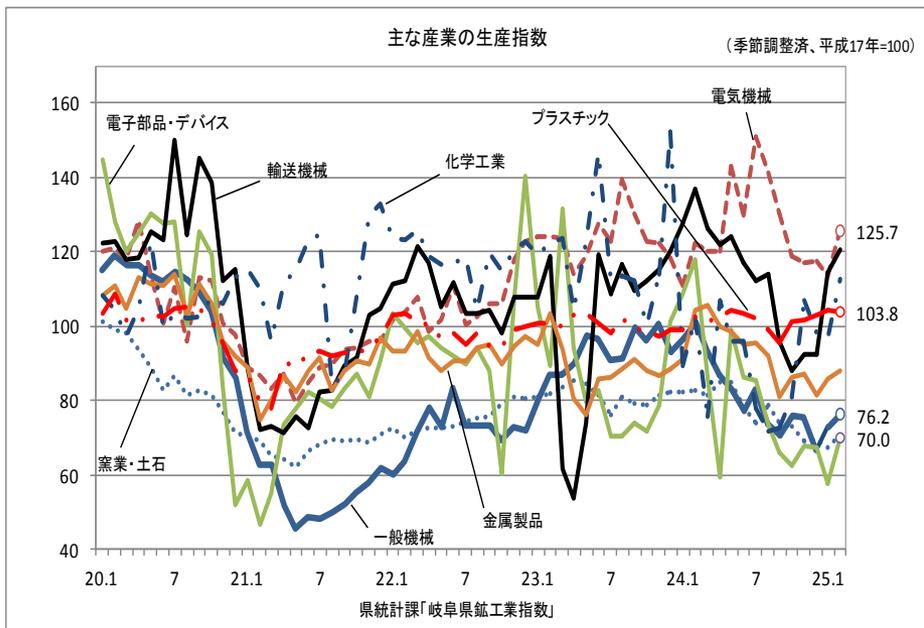
現場の動き

- ◆4月は工場生産能力の100%に近い状態になった。2月3月から順調に伸びている状況にある。残業も発生しており忙しくなっている。円安の影響により海外で車が売れていることに加え、取引先からの前倒しの受注によることが要因になっていると思われる。
- ◆北米は車の販売は前月に変わらず好調で推移している。(以上、自動車用部品)
- ◆売上は先月より10%程度増えた。自動車部品全体の受注増が売上増につながっている。(非鉄金属)
- ◆売上げはピーク時の80~90%程度。
- ◆中国をはじめとした東南アジア全体からの受注については、引き合いが増加傾向となった。(以上、生産用機械)
- ◆出荷量は、対前月で横ばいの状況である。トヨタ全体で生産量が伸びており、出荷量も上向きである。(金属製品)
- ◆3月までの利益も既に年間目標を上回っており、これまで好調を維持してきた。3月の売上も計画を上回る見通しである。(プラスチック)
- ◆円安により、自動車関連の運輸については多少忙しくなった。影響が出るにはタイムラグがあるので、これから忙しくなる見込み。(運輸業)

製造業-2(業種別)

○2月の生産指数は、プラスチックで低下したものの、輸送機械、機械工業など多くの産業で上昇した。

○3月の工場向け販売電力量は、窯業・土石、食料品で前年を上回ったが、構成比の大きな機械の減少傾向が続いている。



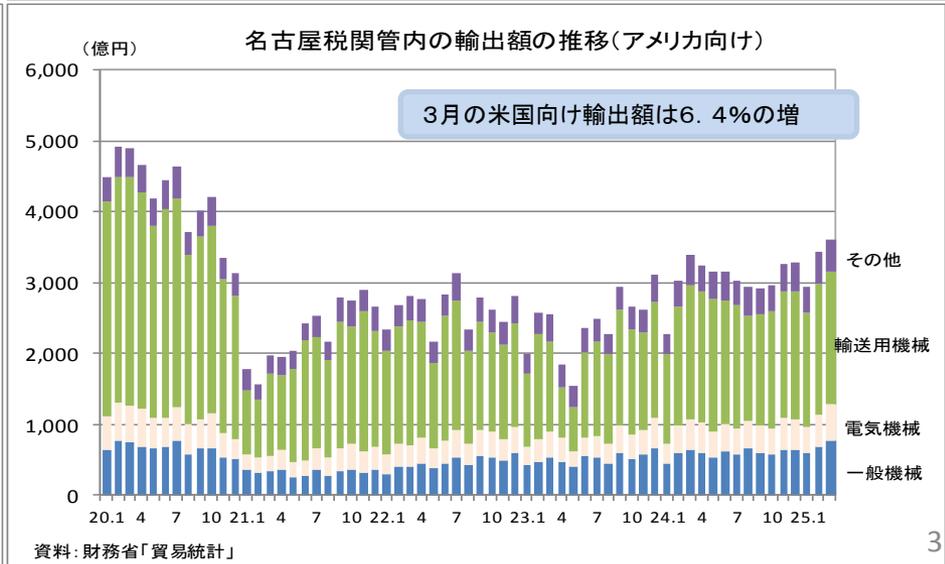
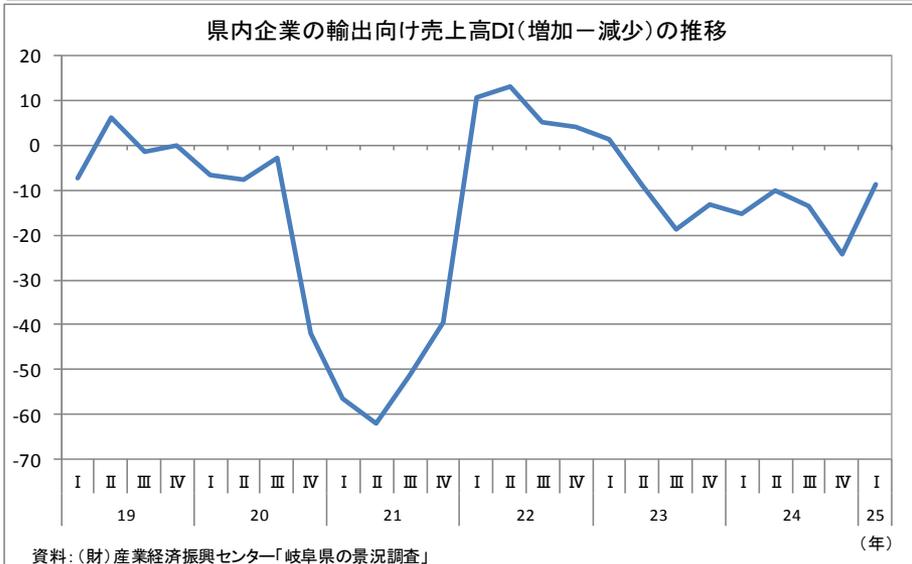
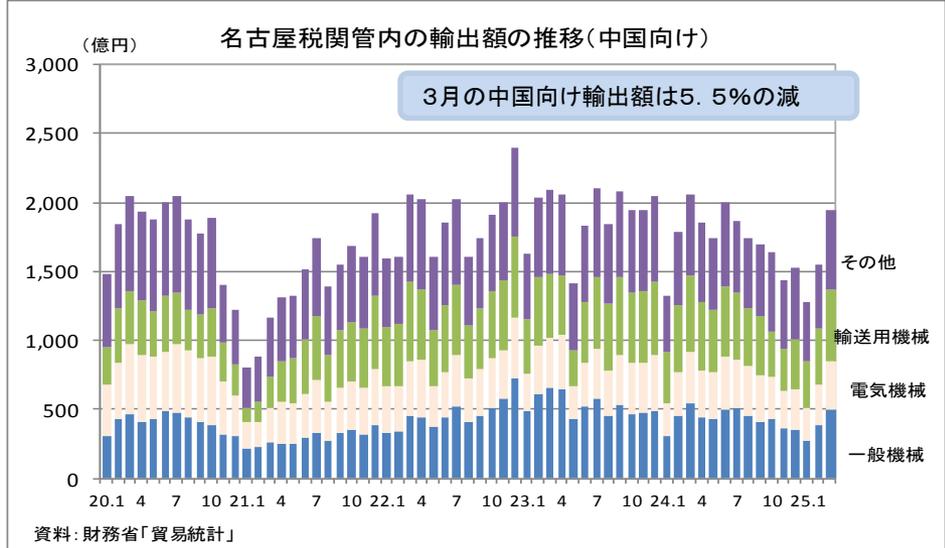
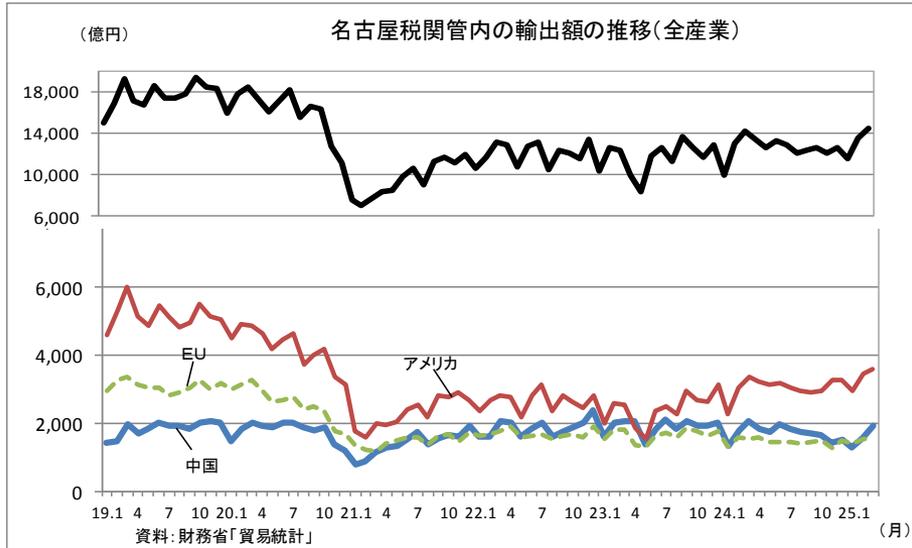
現場の動き

- ◆例年のことだが、3月に比べると、4月は売上がガクッと落ちる。GW明けから夏頃にかけては冬物の取引があるので復調する。(アパレル)
- ◆今月の受注・売上は前年比より落ち込み、景況は良くない。今年に入ってからずっと下降傾向である。
- ◆政権交代が行われ、為替が改善し、株価も上昇しているが、実体経済としては売り上げがついていない。(以上、陶磁器)
- ◆政権交代以降、雰囲気は全体的に良くなったと感じているが、発注の増加などには今のところ繋がっていない。(刃物)
- ◆景況については、昨年と比較すると12月から4月まで減速気味。(紙)
- ◆3月、4月は昨年同時期に比べて好調。
- ◆3月は前期よりプラス(約10%プラス)で好調。(以上、木工)

輸出

○3月の輸出額(名古屋税関管内)は、14,514億円の前年同月比2%増。

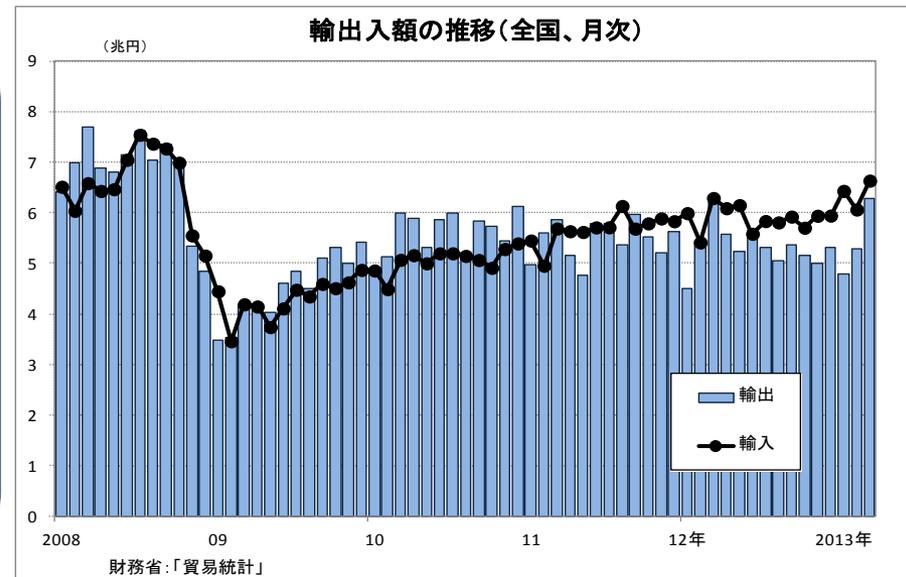
○中国向け輸出は主力の産業が全て減少したことで前年同月比5.5%減となった。逆に、アメリカ向け輸出は輸送機械を除く産業が増加したことで6.4%増となり、直近19カ月中18カ月で前年を上回っている。



海外情勢の影響(直近の円安の動きについて)

- ◆ 全般的な視点として燃料費高騰の影響を危惧しているが、個々具体的な事業者の話としては、まだあまり聞こえてこない。(金融機関)
- ◆ 原料、資材メーカーから、値上げの依頼が殺到している。先行発注等により値上げを先送りしているものの、コスト高は必須である。販売価格への転嫁は難しく、利益の圧迫は回避できないと予測している。(食料品製造)
- ◆ 原油高や鉄鋼等の材料費高は、現在のところ影響は受けていない。今後順番に上がることが予想される。
- ◆ ヨーロッパから材料となる鉄を輸入しているため、対ユーロ円安はコスト増となる。
- ◆ 中国への売上げの回復傾向は見られない。一方で北米向けの好調は維持されている。ガソリン・重油・軽油を主として使う経費が値上がり始めている。
- ◆ 中国情勢等の影響は、ほぼない状況である。北米、東南アジアの出荷は伸びているが、ヨーロッパ市場が上向かない状況である。(以上、輸送用機械)
- ◆ 円安により材料費が少しずつ高騰してきている。一方、輸出に関しては今のところ好影響は生じていない。(電気機械)

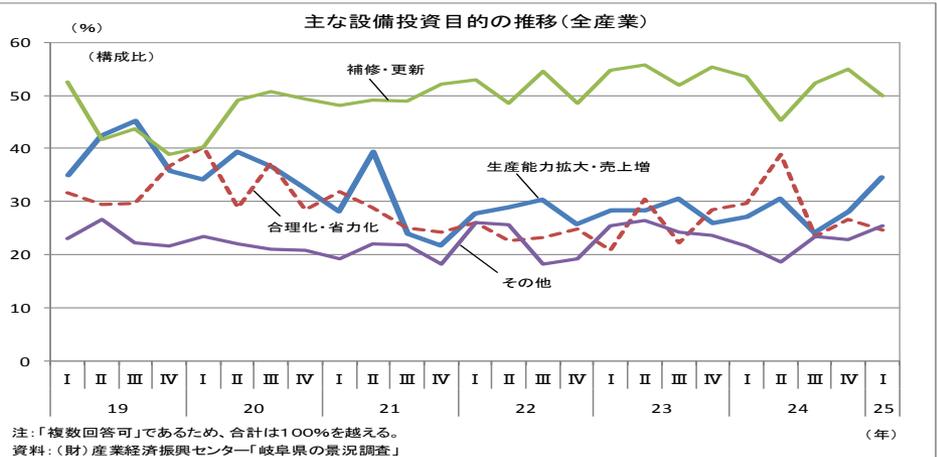
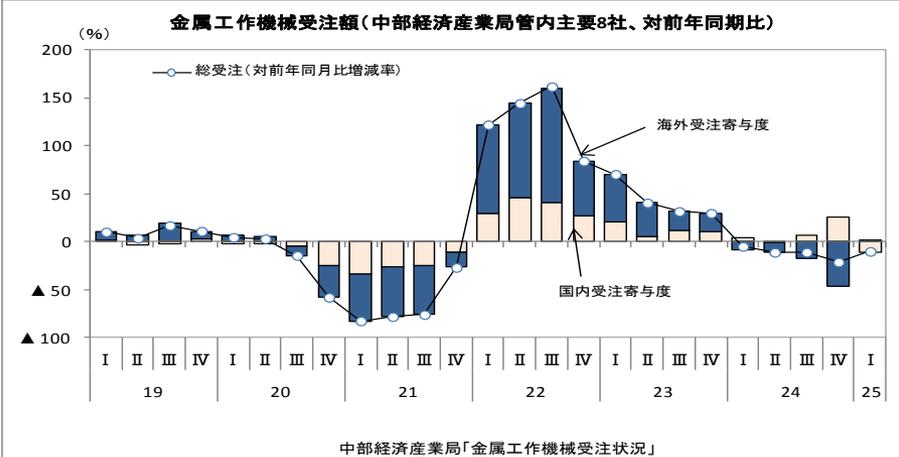
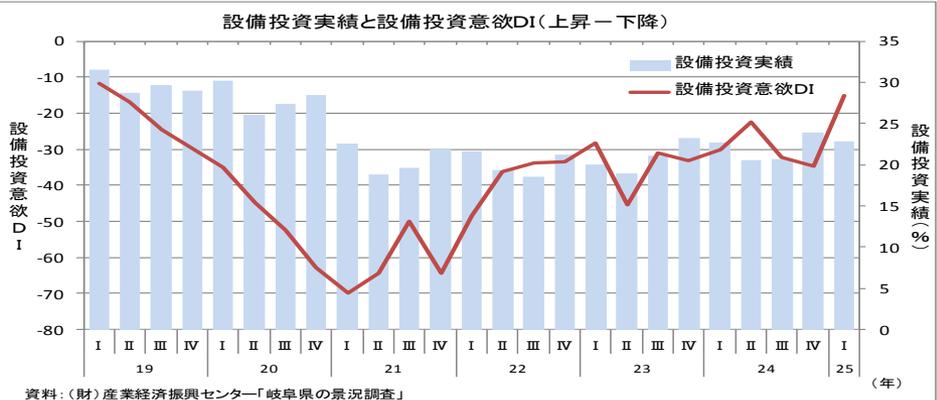
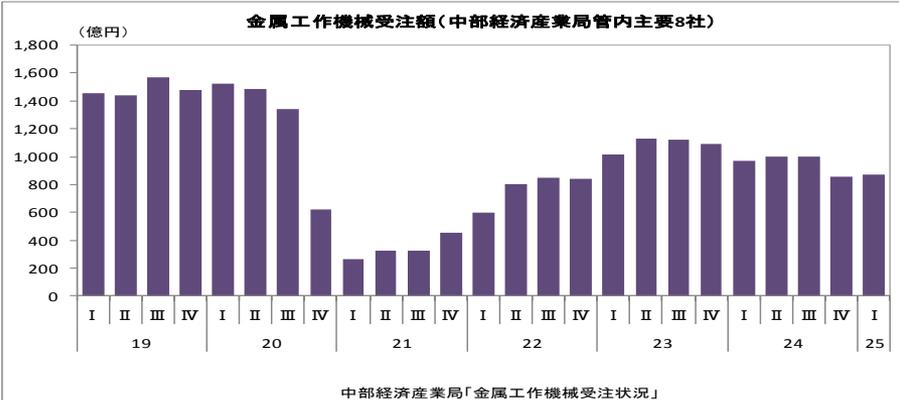
- ◆ 円安傾向は燃料高、原料高となり短期的にはマイナス要因の方が多い。(非鉄金属)
- ◆ 中国をはじめとした東南アジア全体からの受注については、引き合いが増加傾向となった。円安が進んだおかげで海外での機械の引き合いの話が増え始めている。(生産用機械)
- ◆ 急激な円安基調により原材料費が上がっており、収益圧迫している状況である。今後も原材料費が上がるとさらに影響が大きい。(金属製品)
- ◆ 円安・原油高により原料費が高騰する。原料費の高騰が続けば、販売額にも転嫁できるが、現在のように上下しているとそれもできないため、収支への影響が大きい。(プラスチック)



設備投資

- 生産用機械の受注額は、国内受注が減少したことで、5期連続のマイナスとなった。
- 設備投資意欲DIは、改善傾向。

- 「補修・更新」といったやむを得ない理由が減少し、「生産能力拡大・売上増」といった前向きな設備投資が増加した。



現場の動き

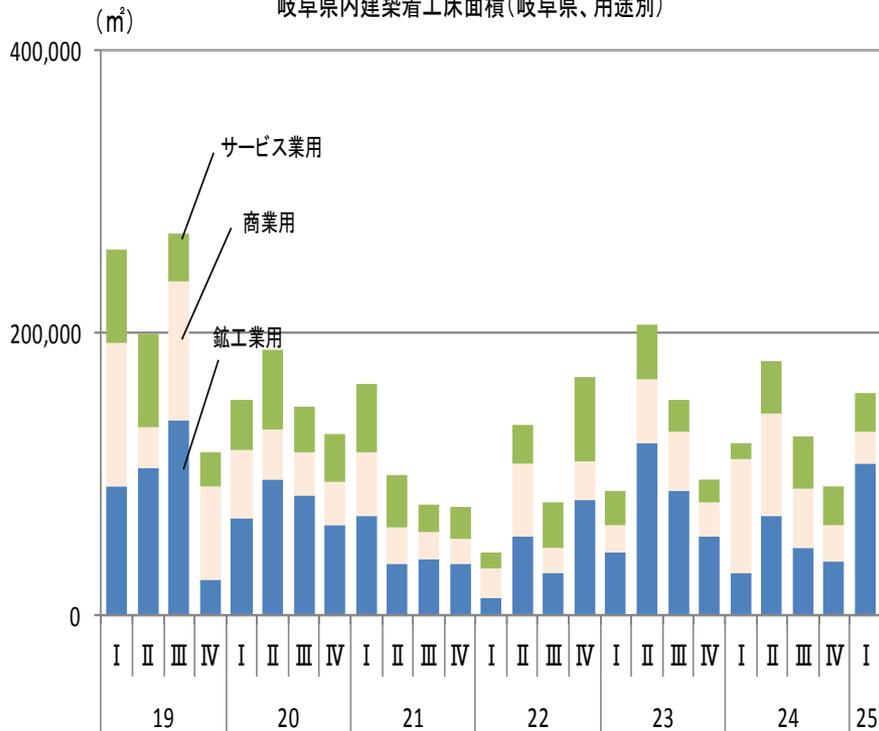
- ◆伸びる市場に積極的に投資を行うとともに、足元の原価低減を行い、競争力をつけて拡販を行う。(輸送用機械)
- ◆中国向け建設機械部品は依然として回復の兆候が見えない状況。
- ◆海外(中国)など、大型印刷ラインの受注・生産増加。国内の印刷機械の商談・引き合いも活発化してきており、暫くは受注量の増加が見込める。(以上、生産用機械)

住宅・建築投資

○25年1-3月期の建築着工は、商業用が減少したものの、鉱工業用及びサービス業用が増加し、前年同期比29.5%増となった。

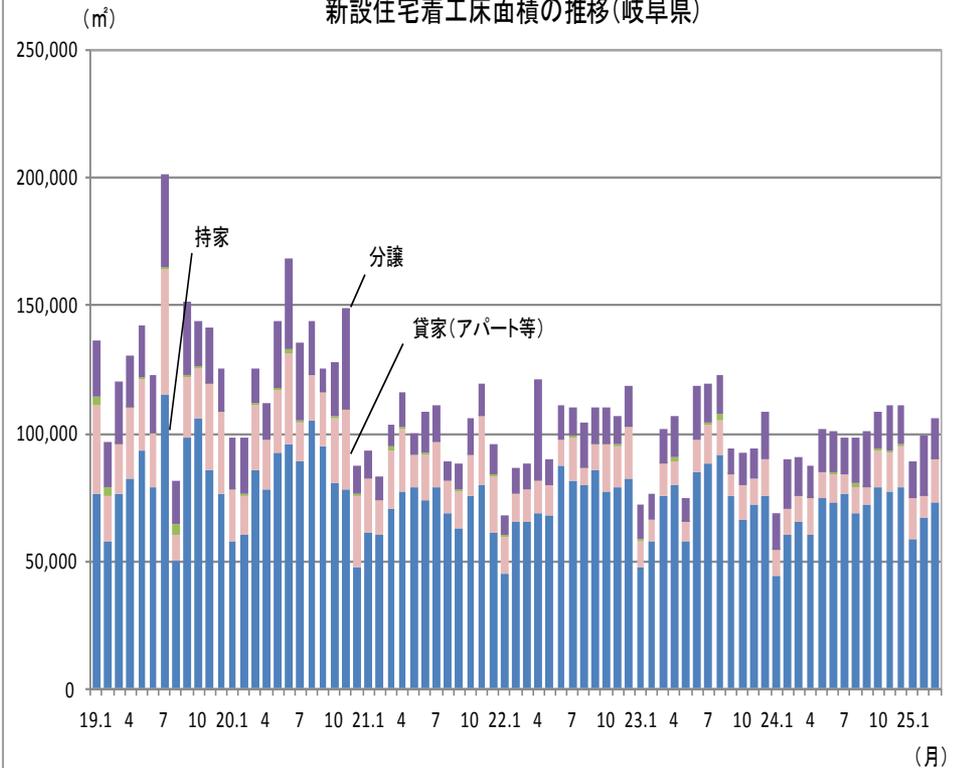
○3月の住宅着工は、全ての区分で増加したことにより、全体では前年同月比16.4%の増加となった。

岐阜県内建築着工床面積(岐阜県、用途別)



資料: 県建築指導課「岐阜県建築着工統計」

新設住宅着工床面積の推移(岐阜県)



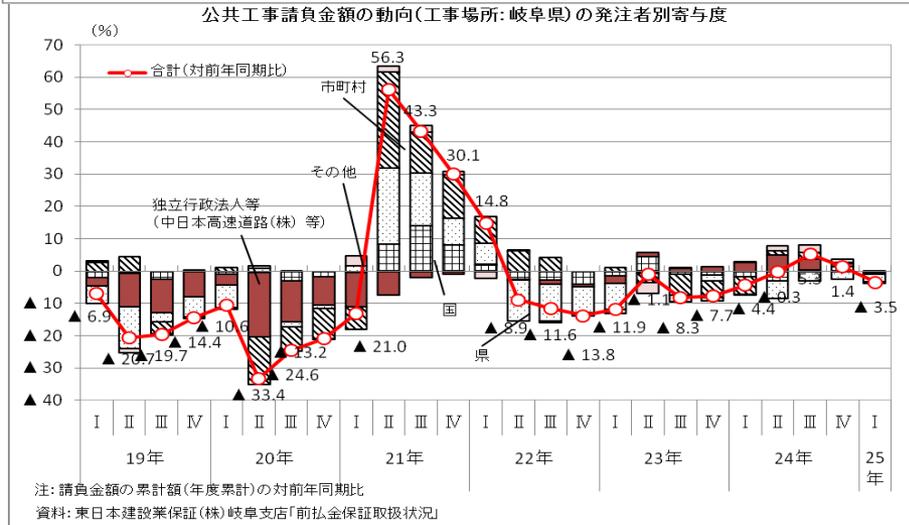
現場の動き

- ◆円安により外材価格は上昇しているが、製品価格は低いままである。(製材所)
- ◆原木の流通量については、3月から横ばい状況である。(森林組合)
- ◆円安により南洋材をはじめとする輸入価格が上昇。一方で中国等の需要増により、調達が難しくなっている。(製材所)

公共工事

○24年度内に県内で実施された公共工事請負金額は1,633億円で過去最低を更新。

○25年1-3月期の公共工事請負金額は、国、市町村、独立行政法人からの発注が減少しているため、対前年同期比3.5%減と4期ぶりに前年同期の水準を下回った。

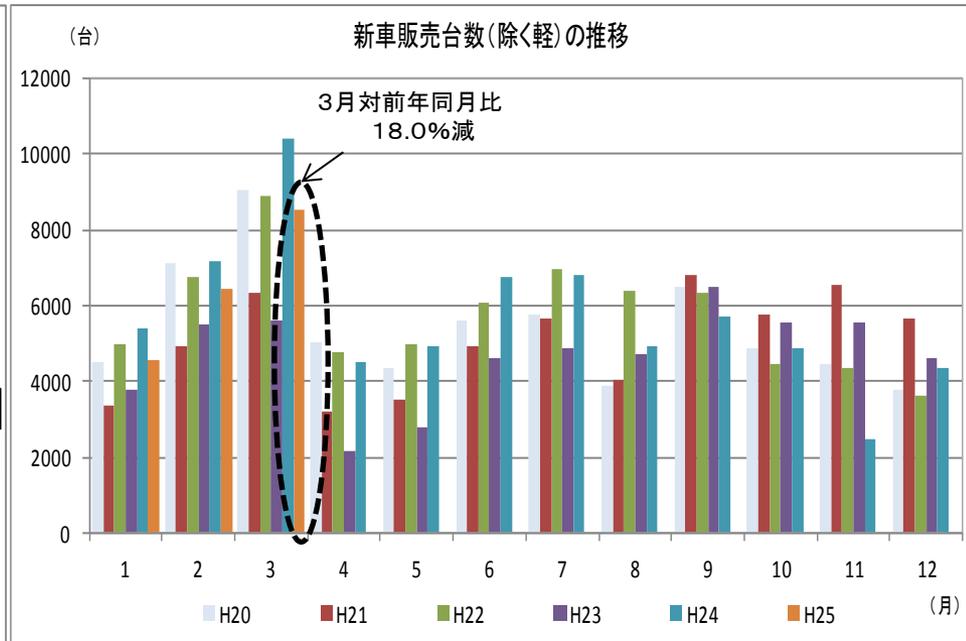
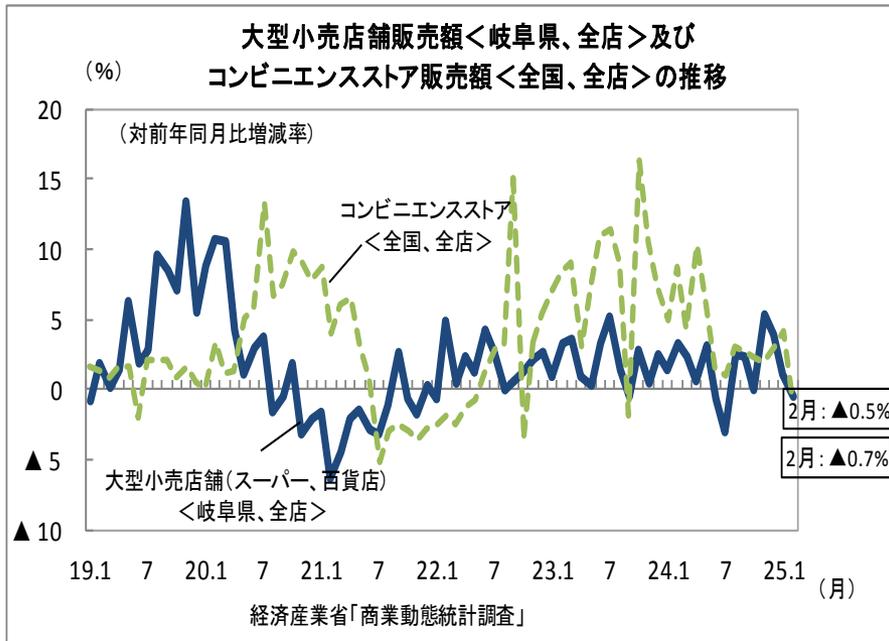


現場の動き

◆建設業者の手持ちの仕事は少ない。一方、大型補正による公共工事が控えていることもあり、業界の雰囲気は明るい。(業界団体)

個人消費(流通・小売)

- 2月の大型小売店販売額は、対前年同月比0.5%減と7カ月ぶりの減少となった。
- 3月の自動車販売は前年同期比18.0%減と7カ月連続の減少となった。



現場の動き

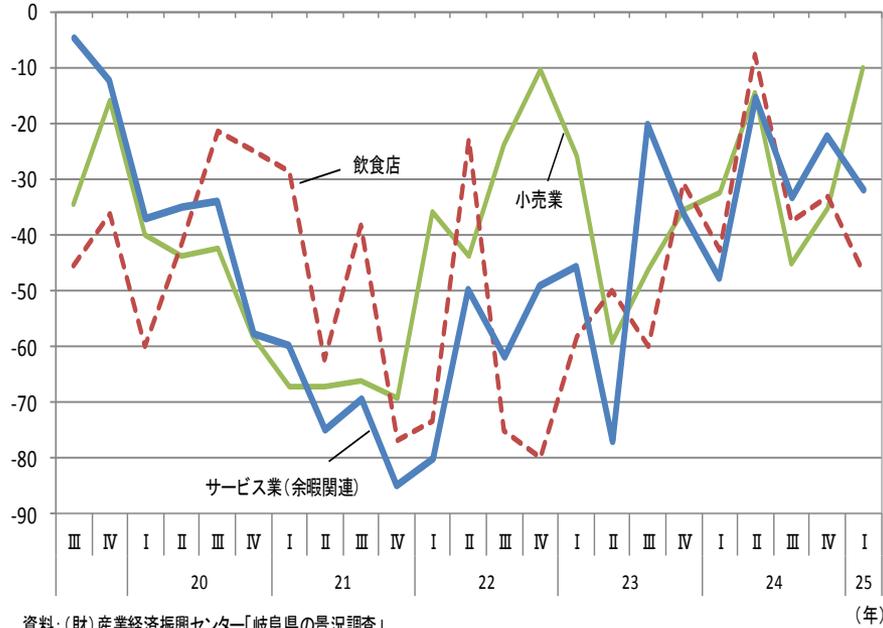
【大型店総括】衣料品は比較的暖かい日が多かったことから、春物と初夏物の売れ行きが好調。食料品は店舗によりバラツキはあるものの、全体としては順調に推移。

- ◆売り上げ及び来場客数はともに前年よりも伸びている。衣食住全て前年よりも良かったが、特に衣料品がよかった。
- ◆売り上げ及び来場客数とも、対前年同月比で102%。衣料品は対前年同月比より1割程度よい。4月は比較的気温も高く、春物と初夏の羽織ものが両方とも売れたことが大きかった。
- ◆円安は食料品輸入物の一部に値上げの影響あり。(以上、大型小売店)
- ◆今月も先月に続き、全体的に順調だった。春らしい暖かさも出てきて、春物衣料品の動きがよかった。(スポーツ用品)
- ◆今月の売り上げは、対前年比で横ばい。空気清浄機も約2倍の伸び。花粉などの影響があるのではないかと。白物は冷蔵庫、洗濯機とも堅調に推移。(家電)

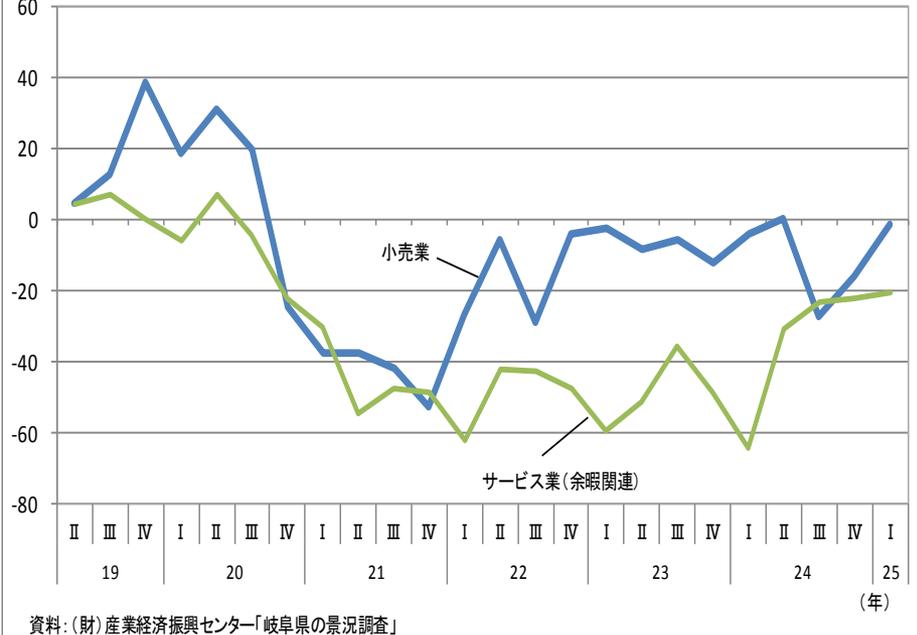
個人消費(流通・小売)－2

○平成25年第 I 四半期の小売業について、売上高、販売額ともに上昇傾向。

県内企業の売上高DI(増加－減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇－下降)の推移



現場の動き

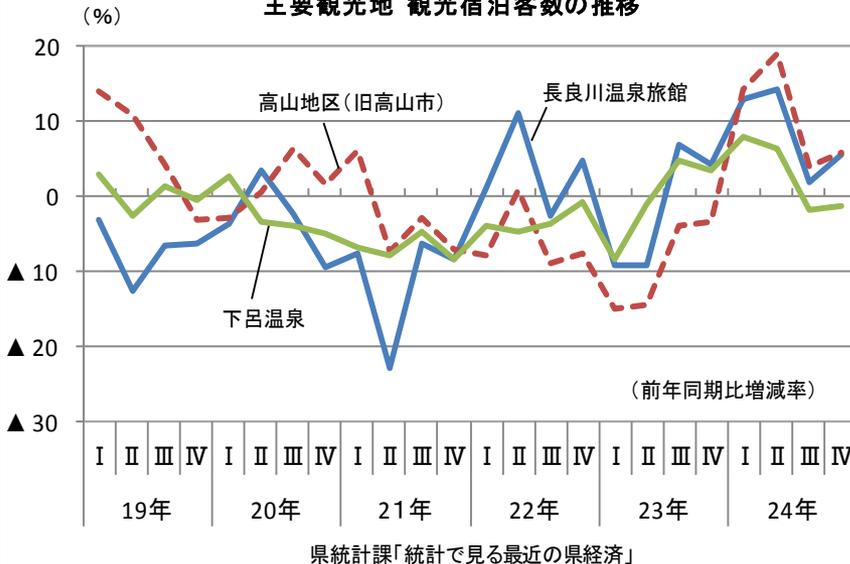
- ◆売り上げは前年同月比で100%。3月が非常に悪かった分、春物が動きだしてきた。(大垣市ブティック)
- ◆前年同月比で90%。気候不順でよくなかった。道三まつりのパレードが中止になり、人通りも少なかった。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆高山祭りがあり、人出は多かった。しかしながら、去年は土日に当たったので昨年ほどではない。
- ◆外国人観光客が増えてきたので売り上げは微増。去年の同時期に比べ、ヨーロッパ・中国も戻りつつある。
(以上、高山市商店街)
- ◆前年同月比で110%。陶器まつり、クラフトフェアの人出は多かったが、店の売り上げへの貢献は少しだった。
(多治見市商店街)
- ◆婦人服を中心に堅調を維持。飲食店舗の売り上げが苦戦。(アクティブG)

観光

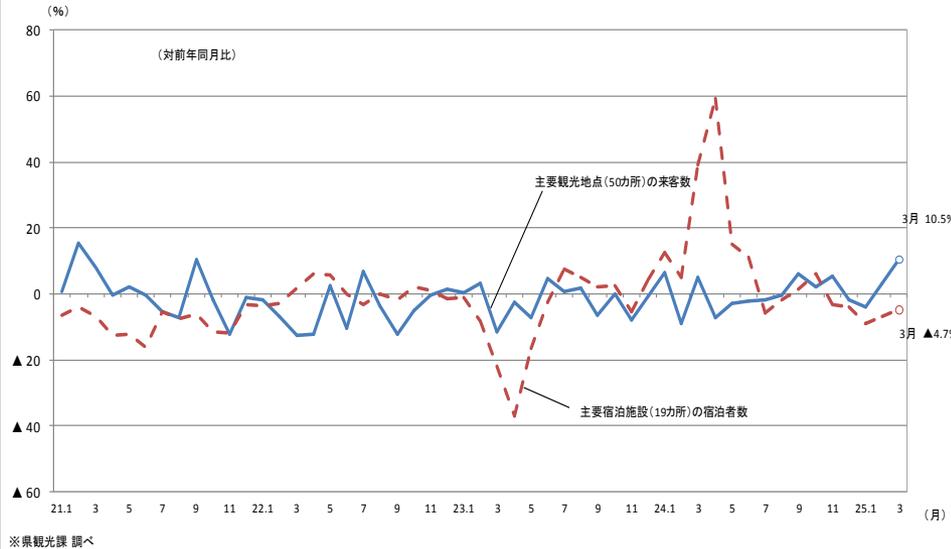
○平成24年第Ⅳ四半期の宿泊客数は、長良川温泉が前年同期比5.7%増、高山地区(旧高山市)が5.9%増と引き続き増加したものの、下呂温泉は1.2%と引き続き減少した。

○主要観光地における3月の観光客数は、前年同月比10.5%増と2ヶ月連続で前年を上回った。一方、主要宿泊施設における宿泊者数は同4.7%減と5ヶ月連続で前年を下回った。

主要観光地 観光宿泊客数の推移



主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



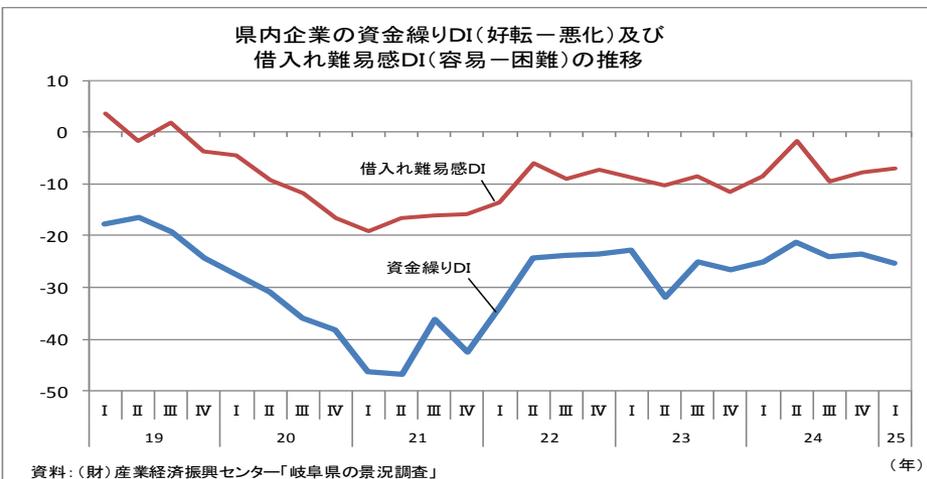
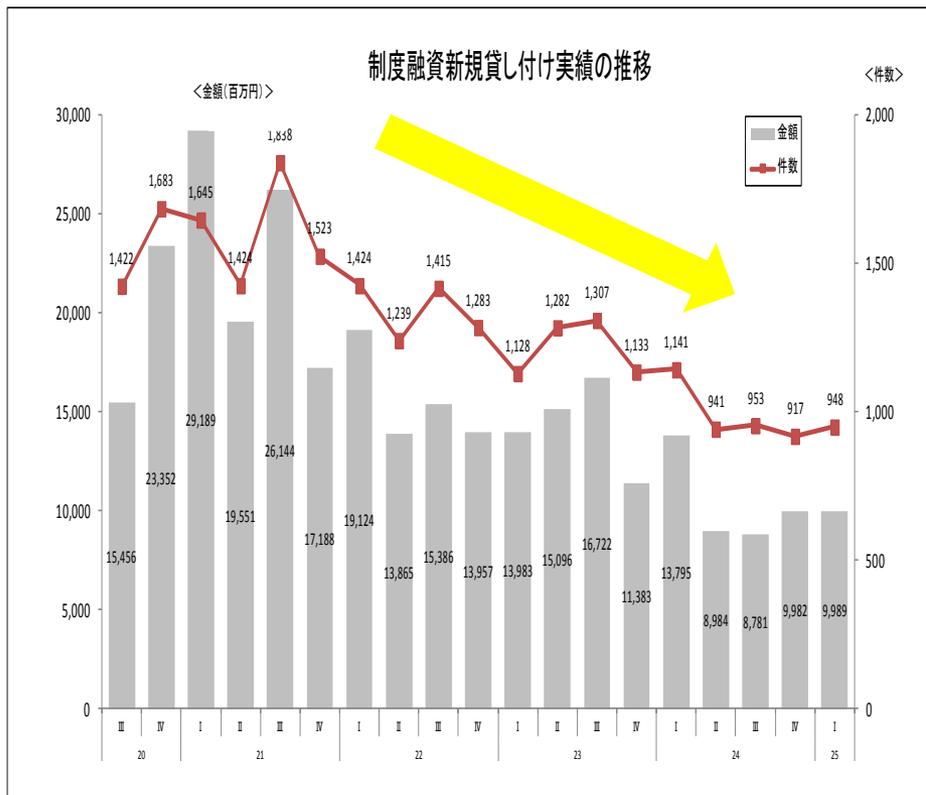
現場の動き

- ◆施設によってバラツキはあるものの、総じて前年の水準を概ね確保しており、GW中も5/3~4を中心に大半の施設が満室となっている模様。インバウンドはアジアを中心に幅広い国籍で回復の動きが続いている。(宿泊施設の総括)
- ◆4月~5月の宿泊予約状況は前年に比べ微増。インターネット予約は1割増。
- ◆GWは4/27~28、5/3~4が満室となっている。(以上、高山市内の宿泊施設)
- ◆GWは5/3~4は、早い時期から動いてきたが、4/27~29の動きが鈍い。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆全体的に4~5月の宿泊は前年よりも増えている。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆台湾は完全復調、韓国もかなり回復。タイからの受注・問い合わせが増えており、欧米系も徐々に増加。(下呂市内の宿泊施設)
- ◆4~5月は国籍を問わずインバウンドツアーの予約がかなり多く入っている(1日あたり2~4本)。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆台湾、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナムから訪日旅行者が増加。(大垣市内の宿泊施設)

資金繰り

- 新規融資実績は21年の秋口から沈静化が続いている。
- 足元の資金繰り及び借入難易度は回復基調が一服している。

<新規融資実績(月別)>

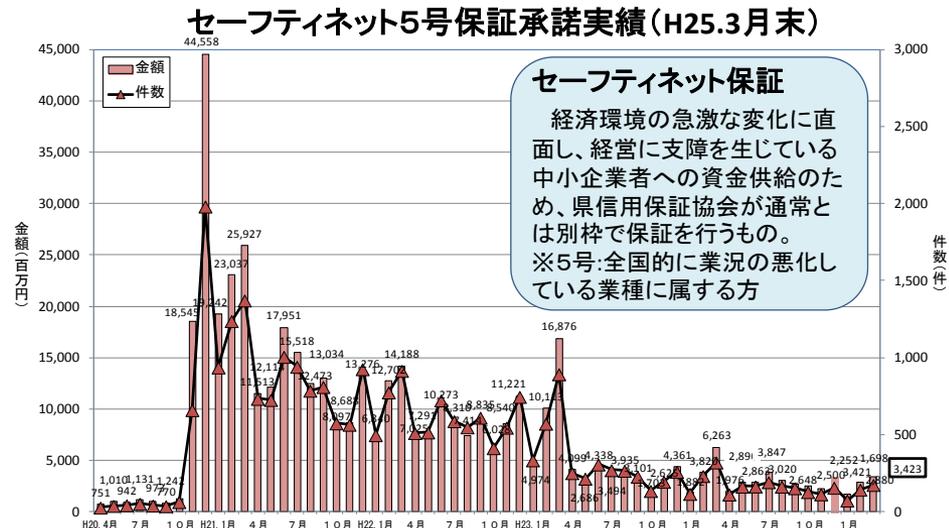
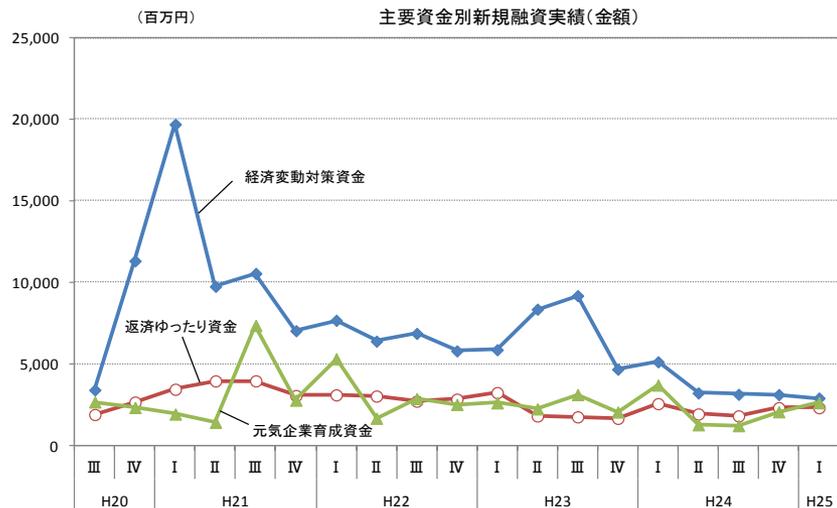


現場の動き

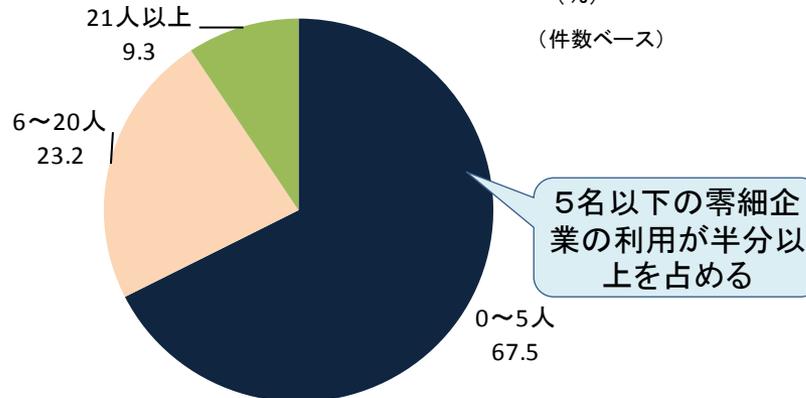
- ◆融資動向全体についてはこれまでどおりで、状況はまったく変わっていない。
- ◆円滑化法終了については、条件変更先の申込件数も際立った変化は無い。
- ◆景気が上向いていることや株高等の良い効果が、我々の管内の事業者にまで下りてきているという実感はない。中小企業者がそれを実感するには、まだまだ時間がかかりそうである。(以上、金融機関)

資金繰りー2

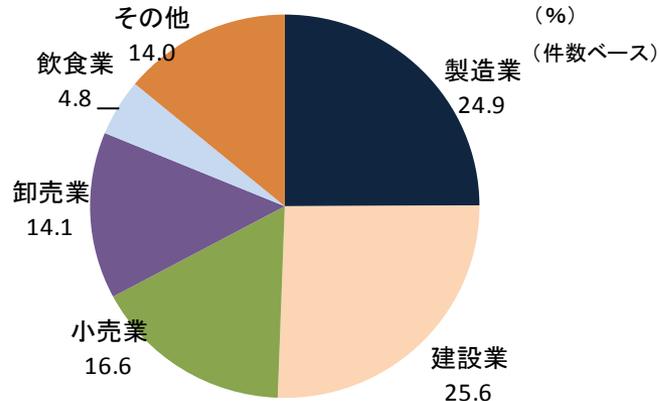
- 資金繰りを改善するための運転資金である「経済変動対策資金」の融資実績は、21年秋以降減少傾向が続いている。
- 引き続き、製造業・建設業の利用が多く、従業員5名以下の零細企業が半数以上を占める。



県制度融資 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



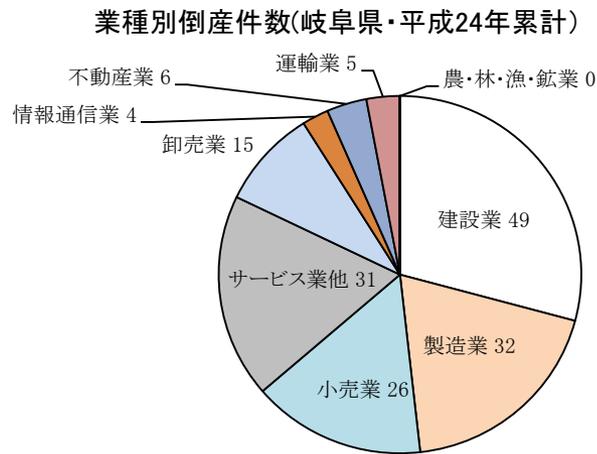
特別経済対策資金 利用企業規模別割合 (H24年4—H25年3月計)



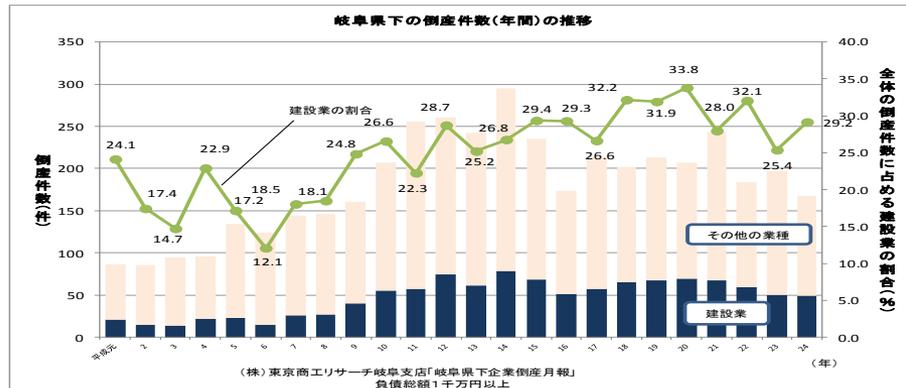
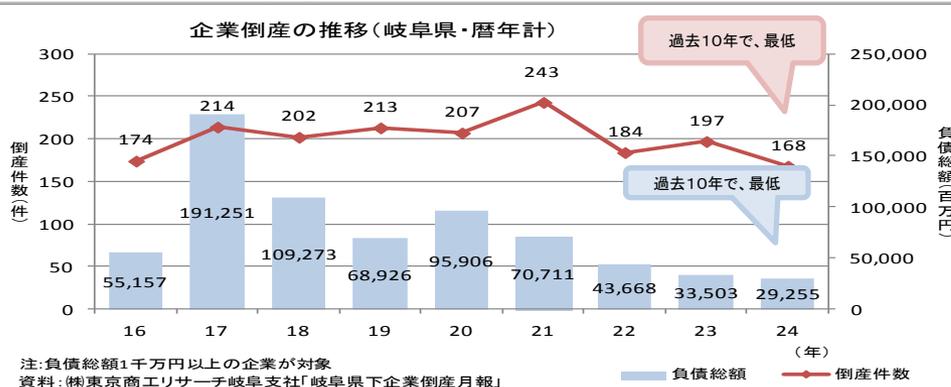
倒産

- 平成25年3月の倒産件数は前年同月から3件減少の15件となった。
- 平成24年の倒産件数は168件となり、前年から29件減少。負債総額は平成10年以降最も低い水準。

- 業種別では、建設業と製造業で約5割を占めている。



東京商工リサーチ「岐阜県下企業倒産月報」
負債総額1千万円以上



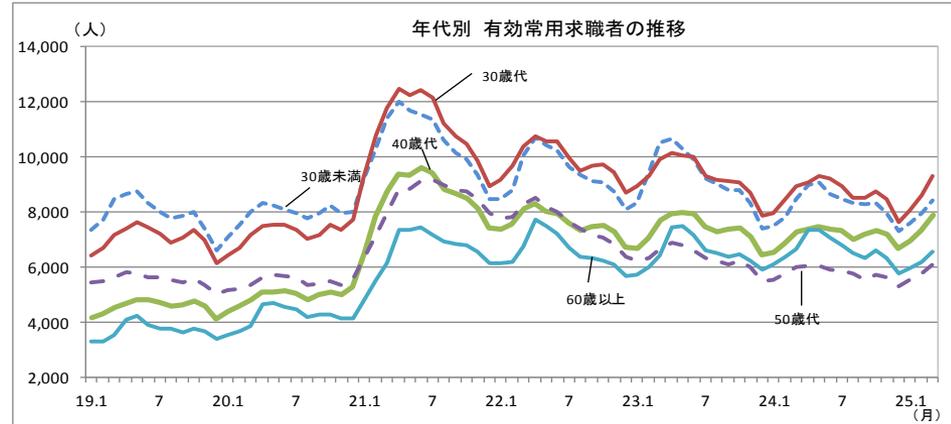
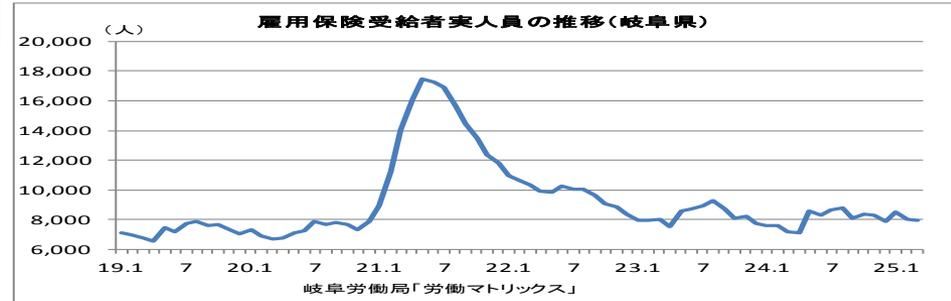
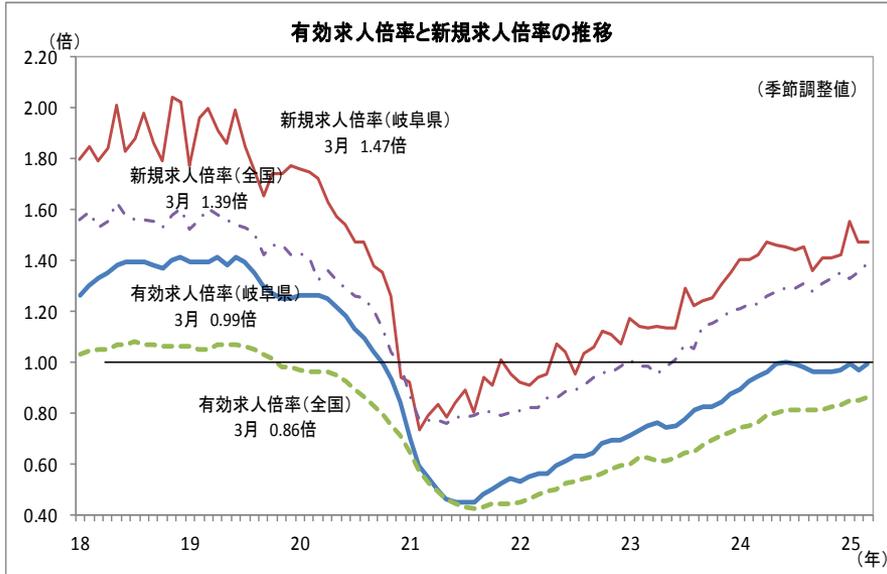
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆3月の県内倒産件数は15件、負債総額は11億8100万円となった。3月単月では、過去20年間で負債総額について、2番目に少なかった。
- ◆金融円滑化法の終了後も各金融機関の柔軟な対応が継続して、更に新政権下で経済政策への期待感が事業意欲を押し上げており、今後の企業倒産も一進一退の推移が続くものと見込まれる。

雇 用

○3月の有効求人倍率は0.99倍と2カ月ぶりに上昇。また、新規求人倍率は1.47倍と前月と同値。

○3月の雇用保険受給者人員は7,950人と前年同月と比べて10.82%増加した。



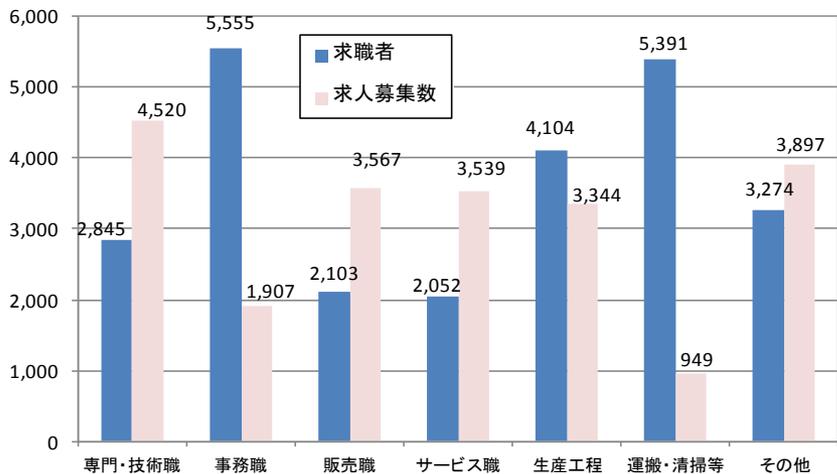
現場の動き

- ◆先月は2～3名の募集に対し2倍程度の応募があったが、今月は4倍程度の応募があった。(食料品製造)
- ◆H26. 4月採用(大卒)活動を開始している。政府から大学生の就職活動の開始時期を遅らせるよう要請があったこともあり、今年度は例年より動きが遅いと思われる。
- ◆ハローワークからの要請もあり、ソニーイーエムシーエス美濃加茂の退職者2名に内定を出した。同社の派遣社員も含めて今後更に3名採用する予定であり、全員を正社員として採用する。(以上、輸送用機械)
- ◆即戦力の営業を募集中で、11月に1名採用した。営業職はまた募集している。(電気機械)
- ◆途中で即戦力となる電子技術に強い人材を補強予定。(生産用機械)
- ◆正規職員、非正規職員とも数名の雇用を予定している。しかし、特に正規職員は誰でも良いというわけにはいかないのので、採用には至っていない。(金属製品)
- ◆受注増に対応するため、派遣社員を5名増員した。(プラスチック)

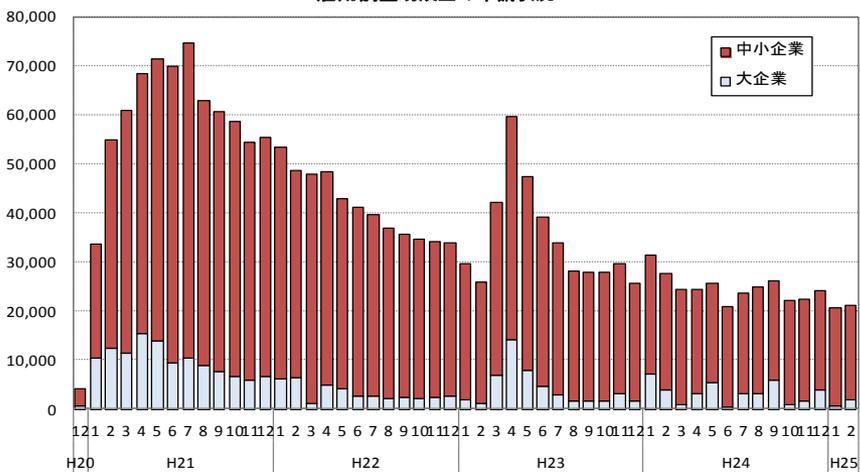
雇 用(職業別)

- 「事務職」や「運搬・清掃等職」では求職者数と求人募集数のギャップが大きい。
- 新規求人は、輸送用機械が減少したが、金属製品、窯業・土石等の産業で増加した。
- 雇用調整助成金は震災直後に急増したものの、このところほぼ横ばい状態。

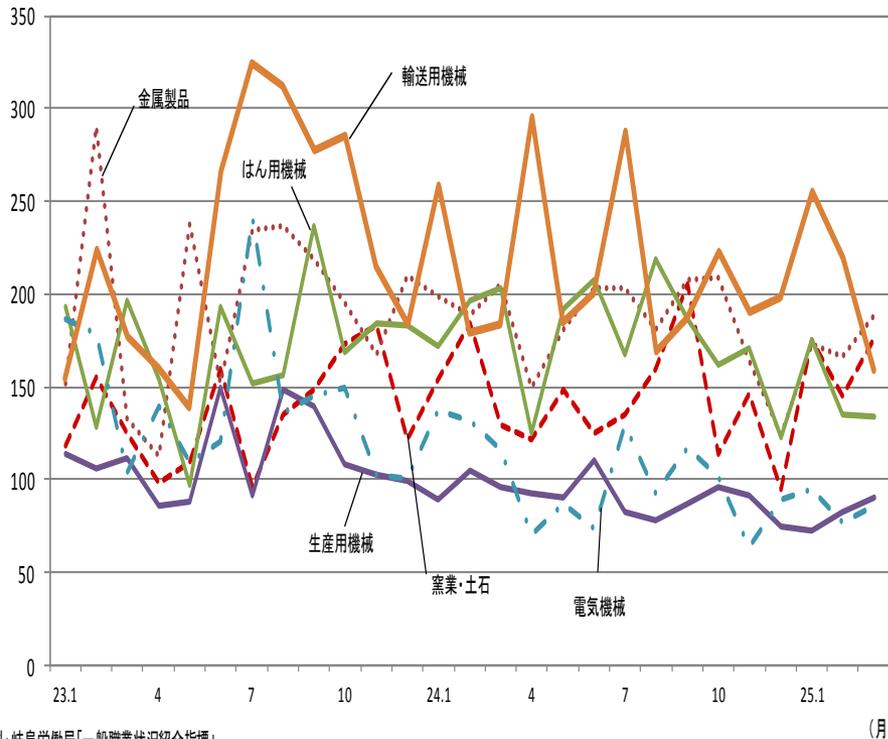
(人) 職業別求職者数・求人募集数(平成25年3月)



雇用調整助成金の申請状況

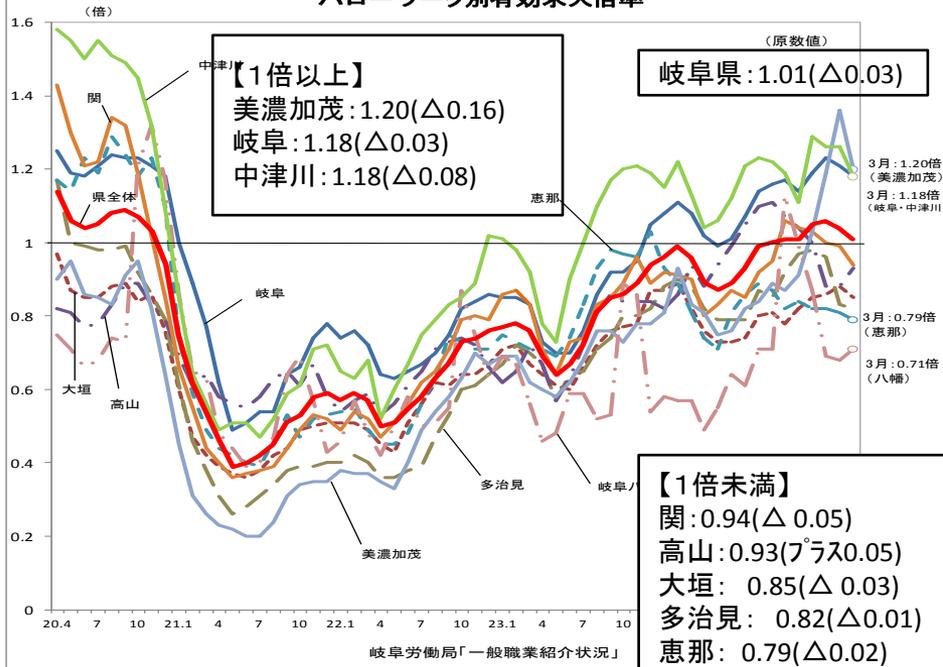


(人) 主要産業別 新規求人数(一般パート)



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



<ハローワーク岐阜>

- ◆ 求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数も増加している。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は減少。

<ハローワーク大垣>

- ◆ 求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数も増加している。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆ 求人者数は横ばいだが、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。
- ◆ 来所者数が増加している。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆ 求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は増加。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆ 求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数も増加している。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は減少。

<ハローワーク恵那>

- ◆ 求人者数、求職者数ともに増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数も増加している。
- ◆ 来所者数が増加している。

<ハローワーク中津川>

- ◆ 求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険の受給者数は増加している。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は横ばい。

<ハローワーク高山>

- ◆ 求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆ 雇用保険受給者数は減少している。
- ◆ 雇用調整助成金の件数は横ばい。

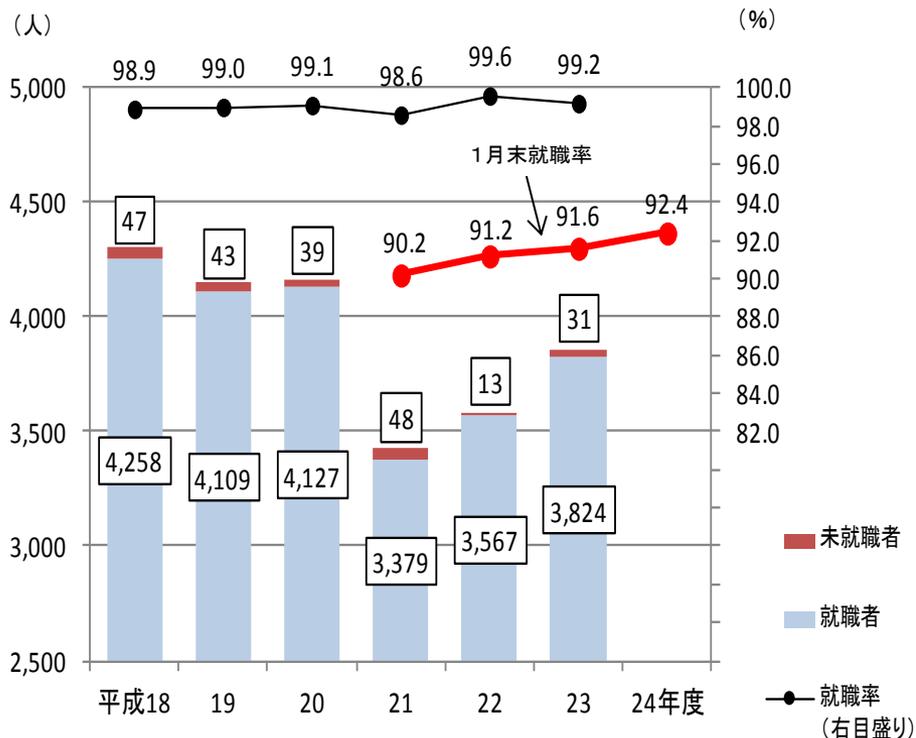
【ソニーEMCS美濃加茂サイト関連】

- 従業者数
平成24年10月末: 2,160人(外国人835人)
平成25年3月末: 0人
- ハローワーク窓口の状況(4月20日現在)
求職者数 773人(うち 外国人300人)

雇 用(高校新卒者の就職)

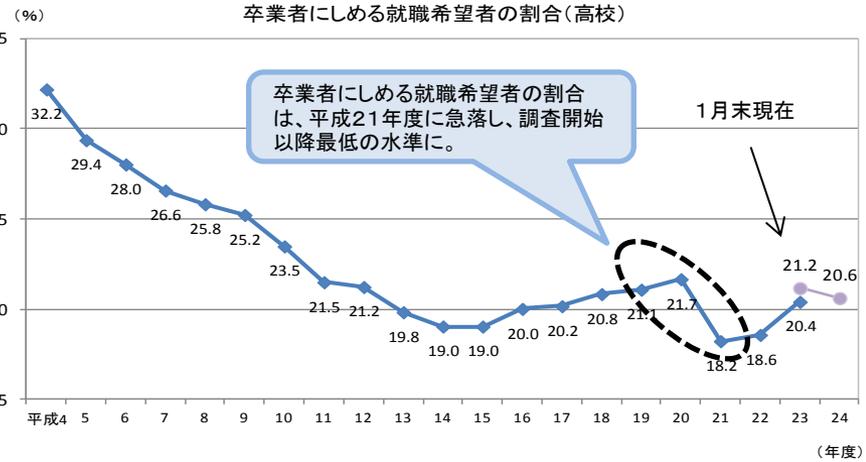
○高校卒業者の就職率はほぼ横ばい。就職希望者割合が上昇し、求職者が増加したことで就職内定者数は増加している。

新規学校卒業者の就職状況(高校卒業者)



資料: 岐阜労働局「新規学校卒業者の職業紹介状況」

卒業者にしめる就職希望者の割合(高校)



現場の動き(内定の状況)

<ハローワーク岐阜>

◆2013年卒業者の内定状況は、増加している。

<ハローワーク高山、恵那、関、美濃加茂、中津川>

◆2013年卒業者の内定状況は、横ばい。

<ハローワーク大垣>

◆2013年卒業者の内定状況は減少している。

現場の動き(求人状況)

<ハローワーク大垣、高山、関>

◆2013年卒業者に対する求人は、増加している。

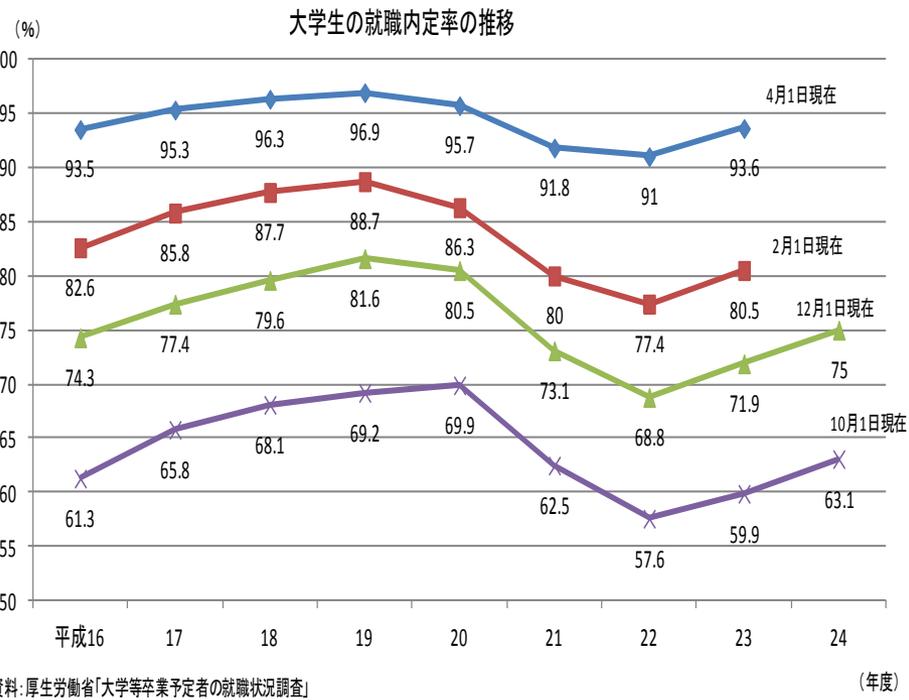
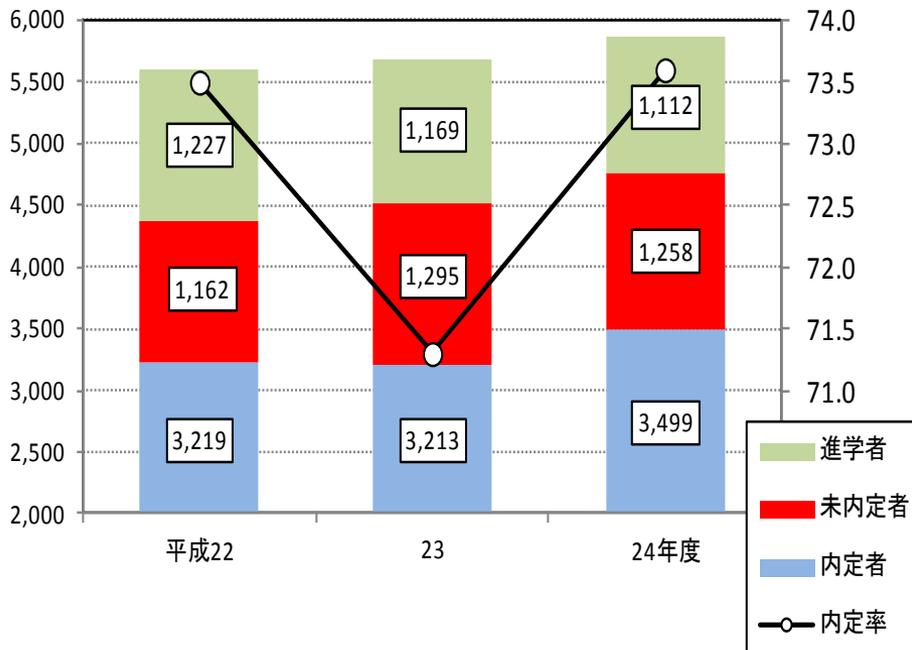
<ハローワーク恵那、美濃加茂、中津川>

◆2013年卒業者に対する求人は、横ばい。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

- 大学・短大卒業者の内定率については、下げ止まりの動きが見られ、全国・岐阜ともに過去3年間で最も高くなった。
- 25年3月の卒業予定者については、昨年度より改善傾向にある。

(人) 大学・短大卒業者の進路先(1月末現在) (%)



【岐阜県内の主な大学】

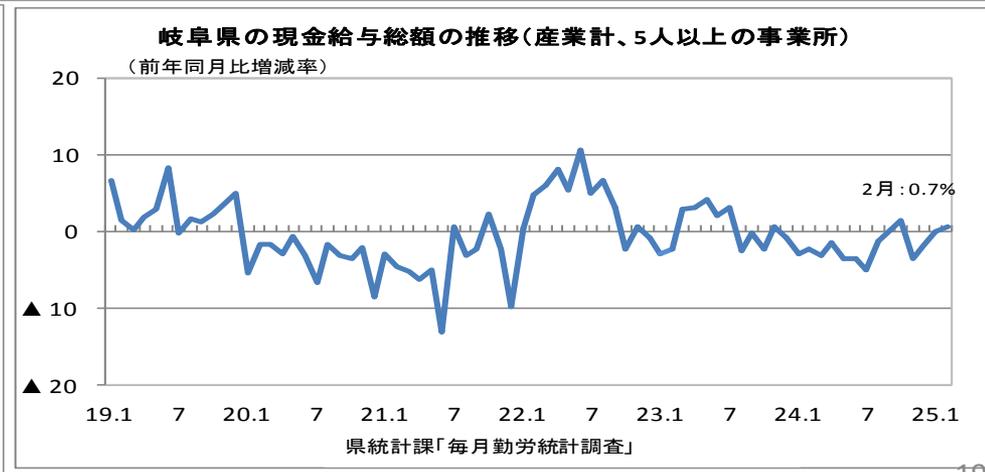
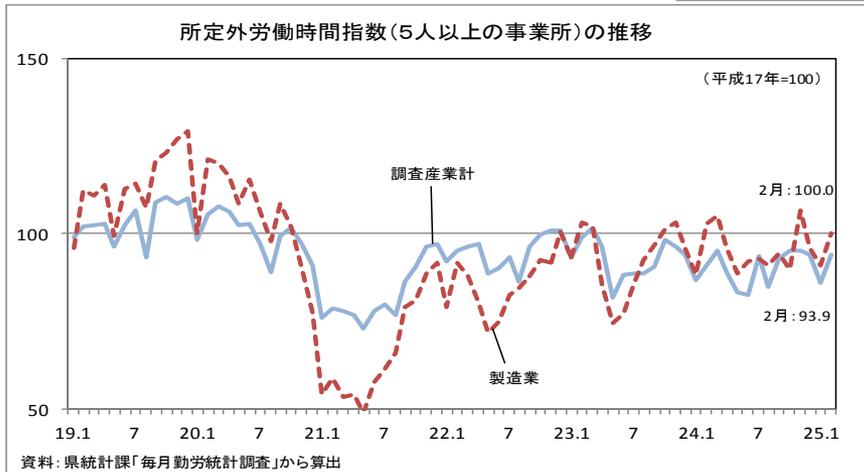
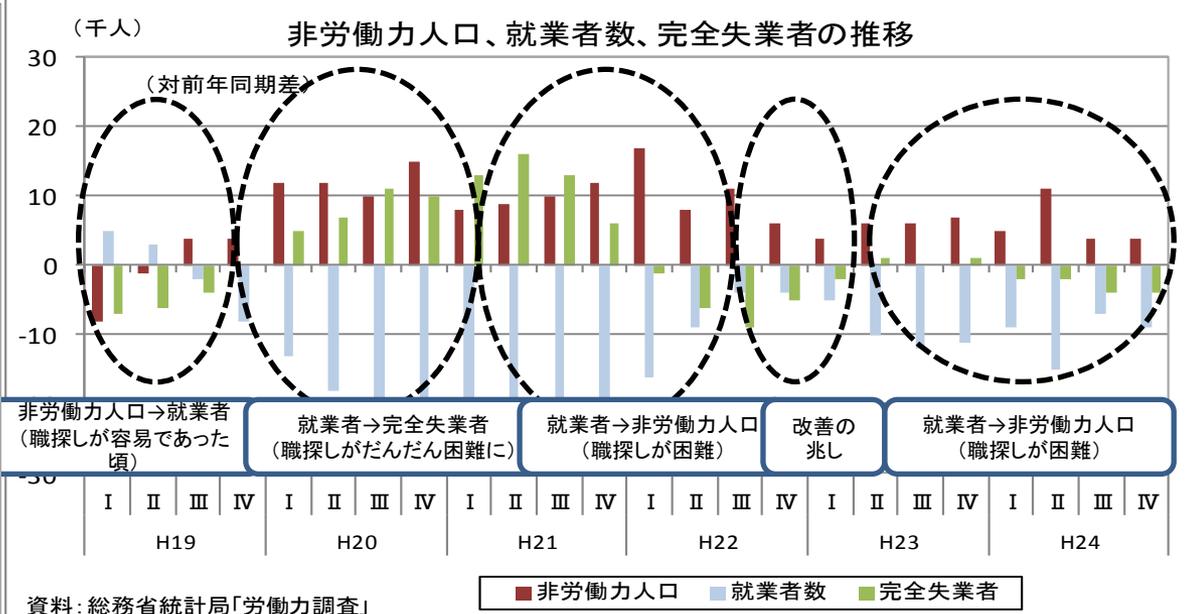
- ・3月末の内定率は95.%と昨年度並みで推移している。
- ・3月末の内定率は学生の状況に変更があり92%と昨年度を上回る状況。
- ・3月末の内定率は96%と昨年度を2%程上回る状況。

【愛知県内の主な大学】

- ・3月末の内定率は95%と例年より1%上回っている。
- ・3月末の内定率は83%で、学生への調査の強化により昨年より2%程度上昇している。
- ・3月末の内定率は96%と昨年に比べて3%程度上昇している。

雇用(完全失業率)

- 平成24年第Ⅳ四半期の完全失業率は3.1%と0.2ポイントの低下。
- 平成21年以降職探しが非常に困難な状況が続いたが徐々に緩やかになり、平成22年第Ⅲ四半期以降は改善の兆しも見られた。しかし、直近は再び減少局面に。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業全体では、円安により収益面で改善傾向にあるものの、原材料価格の上昇が始まっている。受注や生産が増加するなど、比較的明るい声が多い。
生産用機械においては、東南アジアからの受注が増加するなど海外での引き合いが増え始めている。
- 直近の円安の動きについては、輸出が増加する一方で、原材料価格の上昇により製造コストを押し上げているが、販売価格への転嫁が難しく利益を圧迫し始めている。
- 地場産業は、刃物及び木工で明るい声も聞こえたが、依然として消費意欲の減退や海外製品との競合、原材料費の値上がりなどにより厳しい状況が続いている。
- 小売については、食料品の売上げが順調に推移しており、衣料品についても比較的暖かい日が多かったことから春物と初夏物の売上げが好調であった。
- 観光は、総じて前年の水準を概ね確保しており、GW中も5／3～4を中心に大半の施設が満室となっている。インバウンドはアジアを中心に幅広い国籍で回復の動きが続く。
- 雇用面では、受注量の増加から、残業や非正規の雇用が発生している。正社員の雇用については専門職や即戦力の人材を求めているが、採用に苦慮している企業が多い。
- 企業の資金繰りは、改善傾向が一服し、ほぼ横ばい状態にあるが、新規借入れ需要は依然少ない。